

大阪府三島救命救急センター臨床研修プログラム

1. プログラムの目的と特徴

基本的臨床能力を養うためには、自己研鑽し、医師としての人格を身につけることが第一義である。加えて、救急医療は医の原点であるという認識に基づき、内因性、外因性を問わずあらゆる救急疾患の初期対応に必要な技術と知識を習得し、社会が要請する臨床医の基礎的な能力を獲得することが、このプログラムの目的である。

大阪府三島救命救急センターは協力型臨床研修病院として、管理型臨床研修病院である大阪医科大学付属病院、高槻赤十字病院、市立枚方市民病院、大阪市立大学医学部附属病院、医療法人清恵会清恵会病院と連携して救急研修を行うものである。

2. 大阪府三島救命救急センター施設概要

所長： 秋元 寛

ホームページ： <http://www.osaka-mishima.jp/index.htm>

電話 0726-83-9911、FAX 0726-83-6111

住所：〒569-1124 大阪府高槻市南芥川町 11-1

許可病床数： 41床 (ICU 8床を含む)

常勤医師数： 23名

敷地面積： 2414.93m²

建物面積： 3902.00 m²

標榜科目：救命救急センター、内科、外科、整形外科、放射線科、麻酔科、救急科
心臓血管外科、循環器内科 脳神経外科

年間入院患者数： 約 1200名

臨床研修病院：協力型

3. 連携する管理型臨床研修病院

管理型臨床研修病院：

- ・大阪医科大学付属病院

院長：花房 俊昭

ホームページ <http://www.osaka-med.ac.jp>

電話 072-683-1221

住所：〒569-8686 大阪府高槻市大学町 2番 7号

許可病床数：1,084

- ・高槻赤十字病院

院長： 田嶋 政郎

ホームページ <http://www.takatsuki.jrc.or.jp>

電話 072-696-0571、FAX 072-696-1228、

住所： 〒569-1096 大阪府高槻市阿武野 1-1-1

許可病床数： 446床

- ・市立枚方市民病院

院長： 森田 眞照

ホームページ

<http://www.city.hirakata.osaka.jp/freepage/gyousei/byouin/homepage/>

電話 072-847-2821、FAX 072-847-2825

住所： 〒573-1013 枚方市禁野本町 2丁目 14番 1号

許可病床数： 430床

- ・大阪市立大学医学部附属病院

院長： 原 充弘

ホームページ <http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp/>

電話 06-6645-2121、FAX 06-6632-7114

住所： 〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号

許可病床数： 1,000床

- ・医療法人清恵会清恵会病院

院長： 美濃 眞

ホームページ <http://www.seikeikai.or.jp>

電話 072-251-8199、FAX 072-259-3691

住所： 〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町4丁目2番10号

許可病床数： 276床

研修管理委員会：研修の管理のために各管理型臨床研修病院との間にこの委員会を設置し、委員として参加する。

- ・大阪医科大学附属病院研修管理委員会
委員長 花房 俊昭 (院長)
委員 秋元 寛 (大阪府三島救命救急センター)
- ・高槻赤十字病院研修管理委員会
委員長 田嶋 政郎 (院長)
委員 秋元 寛 (大阪府三島救命救急センター)
- ・市立枚方市民病院研修管理委員会
委員長 古川 恵三 (副院長)
委員 秋元 寛 (大阪府三島救命救急センター)
- ・大阪市立大学医学部附属病院研修管理委員会
委員長 原 充弘 (院長)
委員 秋元 寛 (大阪府三島救命救急センター)
- ・医療法人清恵会清恵会病院研修管理委員会
委員長 北岡 治子 (院長代理)
委員 秋元 寛 (大阪府三島救命救急センター)

4. 専門医、認定医制度指定研修施設

| | | |
|-----------------------|------|------------|
| 臨床修練指定病院 (外国人医師、歯科医師) | 認定番号 | 厚生省収健政第31号 |
| 日本救急医学会指導医指定施設 | 認定番号 | 45 |
| 日本救急医学会専門医指定施設 | 認定番号 | 132 |
| 日本脳神経外科専門医認定制度指定訓練施設 | 認定番号 | C-1711 |
| 日本整形外科学会認定医制度研修施設 | 認定番号 | 大阪府0122号 |
| 日本循環器専門医研修施設 | 認定番号 | 124 |
| 日本胸部外科学会認定医認定制度関連施設 | 認定番号 | 62-5693 |
| 日本麻酔学会麻酔指導病院 | 認定番号 | 第566号 |
| 日本外科学会外科専門医制度関連施設 | 指定番号 | 270138 |
| 心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設 | 認定番号 | 心62-5692 |

5. 指導体制

プログラム責任者： 秋元 寛 (所長)

臨床研修委員会：臨床研修に関する諸問題を検討する委員会として設置する。プログラム責任者を委員長とし、委員は指導責任者によって構成される。

構成：委員長 秋元 寛 (所長)

副委員長 大石泰男 (副所長)

委員 西原 功 (副所長)

開催：毎年1回、研修開始前の3月に開催する。その後は適時開催する。

指導責任者および指導体制

指導責任者：研修医を直接的にまたは間接的に指導し、その到達度を評価する。

研修統括責任者 秋元 寛（所長、日本救急医学会指導医）

指導責任者 大石泰男（副所長、日本救急医学会指導医）

指導責任者 西原 功（副所長、日本救急医学会指導医）

指導体制：

- ・上記指導者責任者または臨床経験7年以上の医師（指導医）が直接指導を行う。
- ・指導責任者は1ヶ月に1回、研修医が提出した研修実績表によって研修の進行度精査するとともに研修方法等について指導を行う。

6. 研修医の待遇

身分：研修医（非常勤職員）

給与：管理型臨床研修病院が支給する。

時間外手当と当直手当は大阪府三島救命救急センターから支給する。

賞与：支給なし

住宅：管理型臨床研修病院において確保する。

社会保険：社会保険は管理型臨床研修病院において加入する。

医師賠償責任保険：各自加入とするが、強制加入とする。

勤務時間：原則的には朝 8:00 から夕方 5:00 までうち昼休みは1時間、

週休2日制（土曜日、日曜日、祝日を休みとする）

当直勤務あり、当直の翌日は休みとする（当直手当は支給する）

7. 研修の内容

研修分野：救急医療

研修対象：このプログラムの対象者は大阪医科大学付属病院、高槻赤十字病院、市立枚方市民病院、大阪市立大学医学部附属病院において研修医として採用された研修医とする。

研修医の募集：

大阪府三島救命救急センターでは研修医の募集は行わない。当施設での救急医療研修を希望する者は上記管理型病院に問い合わせてください。

一般目標：救急患者の初期診断、初期治療に必要な知識と技術を修得するとともに、我が国の救急医療システムや救急に関わる法的諸問題も理解する。

行動目標：救急搬送患者の初療に参加することによって、救急疾患の病態と重症度の把握、初期診断や初期治療の理解、心肺蘇生や救急処置に関する基礎的な技術の修得を目指す。

手術等の専門的治療にも主治医の一員として参加し、救急疾患の治療法を理解する。

重症患者の集中治療に主治医の一員として参加し、患者管理法や薬剤使用法を修得する。

その他、研修期間中に修得すべき内容の詳細は別紙（研修項目）に記載する。

研修期間：2ヶ月間、または3ヶ月間

研修時期：2年間の研修期間中のどの時期に研修するかは、各研修管理委員会において決定する。

定員：年間72名（一時期に12名を上限とする）

週間予定：

毎日 9:00AM から、前日の入院患者や重症患者についての症例検討会を行う。症例検討会では研修医が症例呈示を行う。

火曜、木曜日は症例検討会の後に、研修医による抄読会を行う。前もつ

て指導医から配布された救急に関する英語文献の要旨を発表する。
症例検討会の後、月曜、水曜、金曜日は ICU、病棟の総回診を行う。
火曜、木曜日は ICU および重症患者のみの回診を行う。研修医は主治
医以外の症例の回診にも参加して研修する。
救急患者が搬送された場合、研修医は交代で初期診療にあたる。救急外
来での診療を担当した研修医は、原則として初期治療が終了するまで
指導医と共に治療に参加する。
土曜、日曜日、祝日、夜間は交代制で勤務し、救急患者の初期治療と重
症患者の集中治療を行う。
院内で行われる不定期の勉強会や研修会（災害医療、感染症対策、危機
管理、心肺蘇生法、呼吸療法等）に参加する。

研修の評価：

実際に経験した症例はすべて研修実績表（別紙①、②）に記載し、1 ヶ
月毎に指導医のチェックと指導を受ける。
研修医は研修終了時に研修実績表（別紙①、②）とともに研修評価表に
自己評価を記入して指導医に提出する。
指導責任者は指導医とともに研修終了後に研修医を5段階で評価する。
研修が終了すれば、臨床研修委員会を開催し、研修実績表（別紙①、②）、
自己評価、指導医による評価等によって各研修医を総合的に評価する。
研修医の総合評価は研修実績表（別紙①、②）とともに管理型臨床研修
病院に報告する。

大阪府三島救命救急センター臨床研修実績表

基本的注意事項

1. 本実績表は、卒後医師臨床研修医に対するものであり、各科の枠にとらわれず、広く救急医学の見地から短い研修期間を有効に利用すべく作成されたものである。
2. したがって、研修医はすべての症例の診断及び治療に積極的に参加しなければならない。
3. 研修項目は日本救急医学会「救急認定医診療実績表」「卒後医師臨床研修における必修救急研修カリキュラム」を参考とした。
4. 指導は便宜上、各科の医長および救急認定医が責任を持つが、レジデント以上の Dr. は全員指導に当たること。
5. 実際に担当した患者はすべて実績表に記載し、1ヶ月毎に指導医の検閲を受けること。
6. 研修終了時に自己評価し、指導医の評価を受けた後に所長に提出する。

一般目標

1. 生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断・初期治療を身につける。
2. 救急医療システムを理解する。
3. 災害医療の基本を理解する。

行動目標

1. 救急医療の基本的事項

- (1) バイタルサインの把握が出来る。
- (2) 身体所見を迅速かつ的確にとれる。
- (3) 重傷度と緊急度が判断できる。
- (4) 二次救命処置(ACLS)ができ、一次救命処置(BLS)を指導できる。

*ACLS コースは大阪医科大学救急医療部、大阪市立大学等で受講すること、当センターでは行っていません。

- (5) 頻度の高い救急疾患・外傷の初期治療ができる。
- (6) 専門医への適切なコンサルテーションができる。
- (7) 大災害時の救急医療体制を理解し、事故の役割を把握できる。
- (8) 感染管理（標準予防策、感染経路別予防策）を理解し実践できる。

2. 救急診療に必要な検査

- (1) 必要な検査（検体、画像、心電図）が指示できる。
- (2) 緊急性の高い異常所見を指摘できる。

- ・ 緊急血液検査（CBC、生化学、血液型、クロスマッチ）
- ・ 緊急画像診断
単純 X 線（頭、胸、腹、四肢骨盤、脊椎）
超音波検査（心臓、腹部）
CT 検査（頭、胸、腹、四肢、血管）
- ・ 緊急心電図

3. 経験しなければならない手技

A 項目：必修項目

- (1) 気道確保
- (2) 気管挿管
- (3) 人工呼吸
- (4) 心マッサージ
- (5) 除細動
- (6) 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、末梢静脈路確保）
- (7) 緊急薬剤（心血管作働薬、抗不整脈薬、抗けいれん薬など）の使用

- (8) 採血法（静脈血，動脈血）
- (9) 導尿法
- (10) 胃管の挿入と管理
- (11) 圧迫止血法
- (12) 局所麻酔法
- (13) 皮膚縫合法
- (14) 創部消毒とガーゼ交換
- (15) 軽度の外傷・熱傷の処置
- (16) 包帯法
- (17) ドレーン・チューブ類の管理
- (18) 血液型判定
- (19) 緊急輸血
- (20) 感染管理（標準予防策，感染経路別予防策）

B 項目：経験することが望ましい。

- (1) 中心静脈カテーテル挿入
- (2) 穿刺法（腰椎，胸腔，腹腔）
- (3) 簡単な切開・排膿

C 項目：機会があれば経験すること。

- (1) Sengstaken-Blakemore チューブ挿入
- (2) 胃洗浄
- (3) イレウス管の挿入
- (4) 骨折整復・牽引・固定
- (5) 機械的人工呼吸による呼吸管理
- (6) 超音波検査（心臓、腹部）
- (7) グラム染色
- (8) 開胸式心マッサージ
- (9) 気管切開
- (10) 緊急ペーシング
- (11) 心嚢穿刺
- (12) 減張切開
- (13) Swan-Ganz カテーテル挿入
- (14) 観血的動脈圧モニター
- (15) 全身麻酔（吸入麻酔）
- (16) 血液浄化法（含む腹膜透析）
- (17) 内視鏡検査

4. 経験しなければならない症状・病態・疾患

A 頻度の高い症状

* 必修項目：下線の症状を経験し，レポートを提出する。
「経験」とは，自ら診察し，鑑別診断を行うこと。

- (1) 発疹
- (2) 発熱
- (3) 頭痛
- (4) めまい
- (5) 失神
- (6) けいれん発作
- (7) 視力障害，視野狭窄
- (8) 鼻出血
- (9) 胸痛

- (10) 動悸
- (11) 呼吸困難
- (12) 咳・痰
- (13) 嘔気・嘔吐
- (14) 吐血・下血
- (15) 腹痛
- (16) 便通異常（下痢・便秘）
- (17) 腰痛
- (18) 歩行障害
- (19) 四肢のしびれ
- (20) 血尿
- (21) 排尿障害（尿失禁・排尿困難）

B 緊急を要する症状・病態の診断と治療

* 必修項目：下線の病態を経験すること。
「経験」とは、初期治療に参加すること。

- (1) 心肺停止
- (2) ショック
- (3) 意識障害
- (4) 脳血管障害
- (5) 急性呼吸不全
- (6) 急性心不全
- (7) 急性冠症候群
- (8) 急性腹症
- (9) 急性消化管出血
- (10) 急性腎不全
- (11) 急性感染症（破傷風、ガス壊疽等）
- (12) 外傷
- (13) 急性中毒
- (14) 誤飲，誤嚥
- (15) 熱傷
- (16) 流・早産および満期産（当該科研修で経験してもよい）
- (17) 精神科領域の救急（当該科研修で経験してもよい）
- (18) 環境異常（熱射病、偶発性低体温等）

5. 救急医療システム

- (1) 救急医療体制を説明できる。
- (2) 地域のメディカルコントロール体制を把握している。

6. 災害時医療

- (1) トリアージの概念を説明できる。
- (2) 災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握している。

経験した手技、知識、症例チェックリスト

研修医 _____

指導医 _____

研修期間 _____ ~ _____

経験すれば○を記入すること。

I. 経験しなければならない手技

| A 項目 (必修) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | B 項目 (望ましい) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|----------------|---|---|---|---|---|----------------------|---|---|---|---|---|
| 気道確保 | | | | | | 中心静脈カテーテル挿入 | | | | | |
| 気管挿管 | | | | | | 穿刺法 (腰椎, 胸腔, 腹腔) | | | | | |
| 人工呼吸 | | | | | | 簡単な切開・排膿 | | | | | |
| 心マッサージ | | | | | | C 項目 (機会があれば) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 除細動 | | | | | | S-B チューブ挿入 | | | | | |
| 注射法 | | | | | | 胃洗浄 | | | | | |
| 緊急薬剤の使用 | | | | | | イレウス管の挿入 | | | | | |
| 採血法 (静脈血, 動脈血) | | | | | | 骨折整復・牽引・固定 | | | | | |
| 導尿法 | | | | | | 呼吸管理 (呼吸器による) | | | | | |
| 胃管の挿入と管理 | | | | | | 超音波検査 (心臓、腹部) | | | | | |
| 圧迫止血法 | | | | | | グラム染色 | | | | | |
| 局所麻酔法 | | | | | | 開胸式心マッサージ | | | | | |
| 皮膚縫合法 | | | | | | 気管切開 | | | | | |
| 創部消毒とガーゼ交換 | | | | | | 緊急ペーシング | | | | | |
| 軽度の外傷・熱傷の処置 | | | | | | 心嚢穿刺 | | | | | |
| 包帯法 | | | | | | 減張切開 | | | | | |
| ドレーン・チューブ類の管理 | | | | | | Swan-Ganz カテ挿入 | | | | | |
| 血液型判定 | | | | | | 観血的動脈圧モニター | | | | | |
| 緊急輸血 | | | | | | 全身麻酔 | | | | | |
| 感染管理 | | | | | | 血液浄化法 | | | | | |
| | | | | | | 内視鏡検査 | | | | | |

II. 頻度の高い症状

| A 項目 (必修) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | B 項目 (望ましい) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----------|---|---|---|---|---|-----------------|---|---|---|---|---|
| 発疹 | | | | | | 失神 | | | | | |
| 発熱 | | | | | | 視力障害, 視野狭窄 | | | | | |
| 頭痛 | | | | | | 鼻出血 | | | | | |
| めまい | | | | | | 咳・痰 | | | | | |
| けいれん発作 | | | | | | 嘔気・嘔吐 | | | | | |
| 胸痛 | | | | | | 便通異常 (下痢・便秘) | | | | | |
| 動悸 | | | | | | 腰痛 | | | | | |
| 呼吸困難 | | | | | | 歩行障害 | | | | | |
| 吐血・下血 | | | | | | 四肢のしびれ | | | | | |
| 腹痛 | | | | | | 血尿 | | | | | |
| | | | | | | 排尿障害 (尿失禁・排尿困難) | | | | | |

III. 緊急を要する症状・病態

| A 項目 (必修) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | A 項目 (必修) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----------|---|---|---|---|---|--------------------|---|---|---|---|---|
| 心肺停止 | | | | | | 外傷 | | | | | |
| ショック | | | | | | 急性中毒 | | | | | |
| 意識障害 | | | | | | 熱傷 | | | | | |
| 脳血管障害 | | | | | | | | | | | |
| 急性呼吸不全療 | | | | | | B 項目 (望ましい) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 急性心不全 | | | | | | 急性感染症:破傷風、ガス壊疽等 | | | | | |
| 急性冠症候群 | | | | | | 誤飲, 誤嚥 | | | | | |
| 急性腹症 | | | | | | 流・早産および満期産 | | | | | |
| 急性消化管出血 | | | | | | 精神科領域の救急 | | | | | |
| 急性腎不全 | | | | | | 環境異常 | | | | | |

研修評価表

研修医 _____ 指導医 _____ 指導責任者 _____
研修期間 _____ ~ _____
将来希望する診療科 _____ 科 (複数回答可)

経験症例： 内科系 _____ 例, 外科系 _____ 例

(I) 今回の臨床研修で特に経験したい症例、あるいは習得したい知識、手技

・
・
・

(II) 臨床研修に対する自己評価と評価理由 不可 優

1) 必要な手技、症状、病態、疾患に対する評価：① ② ③ ④ ⑤
評価理由：

2) 特に経験したかった内容(1)に対する評価：① ② ③ ④ ⑤
評価理由： 不可 優

3) 患者、患者家族とのコミュニケーションに関する評価：① ② ③ ④ ⑤
評価理由： 不可 優

4) 医療スタッフとのコミュニケーションに関する評価：① ② ③ ④ ⑤
評価理由： 不可 優

(III) 臨床研修内容およびスタッフに対する感想、要望

(IV) 指導医の評価 不可 優

1) 手技・症状・病態・疾患に関する評価：① ② ③ ④ ⑤
講評：

2) 診療態度に関する評価：① ② ③ ④ ⑤
講評： 不可 優

3) 研修態度に関する評価：① ② ③ ④ ⑤
講評： 不可 優

4) 指導医、指導責任者総合評価：① ② ③ ④ ⑤
不可 優

5) 臨床研修委員会総合評価：① ② ③ ④ ⑤
不可 優

指導医サイン _____ 指導責任者サイン _____

大阪府三島救命救急センター臨床研修委員会委員長サイン _____